

発行所

札幌市北区北15条西7丁目
北大医学部同窓会
TEL&FAX (011) 706-5007
E-mail: furate@med.hokudai.ac.jp
https://hokudai-med-dousou.com

編集人 矢部 一郎
発行人 浅香 正博

北大医学部同窓会新聞



CONTENTS

- (1) ・新しい年を迎えて……………浅香 正博
・年頭のご挨拶……………田中 伸哉
- (2) ・名誉教授 川上義和先生(37期)を偲んで……………今野 哲
・教授就任のご挨拶……………竹内 純
・秋の衰草、寂愁……………本間 研一
・富樫 要
- (3) ・秋の衰草、寂愁……………長 和彦
・新世紀の医学に向けて (53)……………平田 健司
・ズームアップ⑤……………田中 伸哉 吉田 篤司
- (4) ・「昨今、北大医学部に来学する留学生について」……………村上 学
・「日本病理学会総会学生発表優秀賞 受賞報告」……………堀之内 壮
- (5) ・フラテ祭2025開催報告
・フラテ112号のご案内
・告知版
- (6) ・理事会・評議員会報告
・新渡戸造友リビングラボ建設資金支援のお願い
・総会、卒業生祝賀会・謝恩会のご案内
- (7) ・事務局からお知らせ
・新刊書紹介
・北海道医学会からお知らせ
- (8) ・百年記念館の利用について
・同窓会新聞・会誌等のWeb活用について
・会員名簿・同窓会誌の処分にお困りの方へ
・ご逝去者
・一面の写真説明・編集後記



錦秋

しら い しん いち
白井 慎一(83期)

新しい年を迎えて

北海道大学医学部
同窓会会長

あさ か まさ ひろ
浅香 正博(48期)

新年おめでとうございます。

昨年は、国内外で大きな出来事が相次ぎ、世界や日本の未来を考える上で重要な一年となりました。

一昨年の衆議院選挙で与党が過半数割れとなって以来の政治状況は、昨年の参議院選挙の結果も踏まえ、引き続き複雑な局面を迎えています。そのような中、自由民主党の総裁選挙が行われ、高市早苗氏が新たな総裁に選ばれました。10月21日には臨時国会が開かれ、高市氏が第104代首相に選出されました。女性首相の新しいリーダーシップの下、国民の様々な声に耳を傾け、安定した国会運営と、未来を見据えた政策を期待しています。

明るい話題として、昨年のノーベル生理学・医学賞に坂口志文氏、化学賞に北川進氏が選考されました。二人の日本人研究者がノーベル賞を受賞されたことは、日本の研究力の高さを世界に示し、私たちに大きな誇りと希望を与えてくれました。長年の地道な研究が世界的な成果として認められることは、学問に携わる者としてこの上ない喜びです。

野球では、ドジャースの大谷翔平選手がブルワーズとのリーグ優勝決定シリーズにおいて投手として7回途中を無失

点、10奪三振、打者として3本塁打を打ち立てました。彼が日本人であることに大きな誇りを感じています。

一昨年の猛暑に続き、昨年も全国的に記録的な暑さとなり、北海道もエアコンが必需品となる状況が常態化しつつあります。農作物の収穫への影響も年々大きくなっており、この異常気象がいつまで続くのか、非常に大きな心配の種です。

このような内外の状況の変化の中で、同窓会の皆様はどのようにお過ごしになりましたでしょうか？皆様のご援助で完成した北大医学部百年記念館は、おかげさまで多くの方にご利用いただいております。同窓生の皆様の交流こそが、この厳しい時代を生き抜くための大切な「知恵」と「絆」を生み出す源泉と思われます。本年も、この百年記念館を最大限に活用し、同窓生同士の活発な交流と情報交換がさらに深まるよう、同窓会活動を推進してまいります。

2026年の新年を迎えるにあたり、北大医学部同窓会の会員の皆様方のご健勝と、ご多幸を心からお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

年頭のご挨拶

医学部長・医学研究院長

た なか しん や
田中 伸哉(66期)

明けましておめでとうございます。同窓会会員の皆様におかれましては、おだやかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。札幌農学校の開学は1876年、今年は北大創基150周年という節目の年となります。記念募金にご協力いただいた同窓生の皆様も多いかと存じます。あらためまして御礼申し上げます。

北海道大学は、HUVision2030として深くサイエンスを追究するエクセレンスと広く社会と協調するエクステンションを2次元で展開することを掲げています。医学部では研究、教育、診療が3本柱であることには変わりありませんが、異分野融合研究、国際的教育連携、先端診療などが重要視されています。腫瘍、免疫、神経、感染症などが研究・診療のキーワードの一部で、北大医学部からは最先端の研究成果が世界に向けて発表され続けています。昨年は文科省主導のAMED医学系研究支援プログラムに採択され、医学研究AI支援部門PRISM-HU(platform for research innovation by support in medicine-HU)がスタートしました。臨床医の臨床業務をAIで効率化し、AIによって「真の研究時間」を創り出します。北大病院、医療・ヘルスサイエンス研究開発機構HELIOSとともに研究成果をあげることを目指します。

教育面では、4年生の臨床実習では各科をローテーションしますが、海外での数週間の実習も可能となっています。アジアやヨーロッパからも医学生が北大に実習に来ており、積極的に国際交流がなされています。今年からDean's Lectureを開始しました。学年を問わず講義を聴いて欲しい特別な演者に依頼するものです。皮切りに、阿部圭史先生(衆議院議員、北大医学部88期)、Benjamin List先生(北大特任教授、2021年ノーベル化学賞受賞)にご講演をいただきました。いずれも大盛況で、講演後学生さんからの質問が30分間途切れることはありませんでした。若い力に期待したいと思います。

最後に財政面ですが、諸費用の高騰で現在医学部の経常収支はマイナスです。そこで、医学部内の講堂にネーミングライツを設定し、クラウドファンディングも実施し、様々な策を講じています。同窓生からの御支援もお願いできれば幸いです。ご支援の際には、北大フロンティア基金のホームページから、「医学部医学科支援」を選択いただければ幸いです。

末筆になりますが、本年も同窓生の皆様方にとりまして素晴らしい年になりますことをご祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。



名誉教授 川上義和先生(37期)を偲んで

北海道大学大学院医学研究院
呼吸器内科学教室 教授

この ひと
今野 哲(会員2)

北大第一内科第4代目教授 川上義和先生が、令和7年7月18日にご逝去されました(享年88歳)。川上先生のこれまでのご略歴、教授在任中の出来事等については、北大時報に寄稿させていただきました。ここでは、ごく最近の、川上先生と私との接点についてお話しさせていただきます。

私は、川上先生が退官される5年前に第一内科に入局し、そして、川上先生がご退官された最後の1年間を、病棟主治医として過ごしました。その為、当時しばしば科内でおこなわれていたレクリ

エーションや、退官記念行事等に参加させていただき、その1年間は濃密であり、当時は懐かしく思い出します。

しかし、私が最も川上先生と接したのは、2017年より2018年までの約1年半です。実に川上先生がご退官され17年後の事です。ある時、川上先生より、1つの論文が添付されたメールと共に、電話がかかってまいりまして、「今野君、この症例についてどう思いますか?」と尋ねて来られました。たまたま私の専門領域であったこともあり、私は「これはIgG4関連疾患ではないでしょうか?」と答え

たところ、川上先生と同じ考えでありました。その論文とは、1981年に、現在の当科の同門会長の小熊豊先生が、日本内科学会雑誌に症例報告されたものであり、原因不明の後腹膜線維症という題名でありました。つまり、当時はIgG4関連という概念のない時代であったのです。川上先生より、今から当時のカルテ、画像、病理標本を探し出し、詳しく調べなさいと指示をいただきました。しかしあいにく、既に時代は電子カルテであり、当時のカルテ、画像は破棄されており、何故か私がきつくとお叱りを受けたことを思い出します。しかし奇跡的に、当時開腹切除された病理組織が残っており、病理所見を改めて見直したところ、閉塞性静脈炎、花筵状線維化といったIgG4関連疾患に特徴的な所見が見られ、IgG4はもちろん、FOXP3、BCL6の免疫

染色も陽性になったのです。この一連の経過は、「35年後に診断されたIgG4関連後腹膜線維症の1例」として、新たに生まれ変わり、Internal Medicine誌に掲載されました。

2021年10月に、北大第一内科は創立100周年を迎えましたが、あいにくコロナ禍の為、川上先生の記念祝賀会への参加は叶いませんでした。しかし、100周年記念誌には立派な文章をご寄稿いただき、その教えは、これからの当科の精神として、脈々と伝わると思っています。川上先生は生涯、臨床医と研究者としての姿勢を貫き、Physician Scientistの姿を我々に見せていただきました。

川上先生のこれまでの長年にわたるご指導に改めて感謝し、ここに謹んで心よりご冥福をお祈り申し上げます。

教授就任のご挨拶



分子生物学教室
教授

たけ うち じゅん
竹内 純
(会員2)

このたび令和7年10月1日付で、本学大学院医学研究院生化学分野 分子生物学教室 教授を拝命いたしました、竹内純と申します。謹んで新任のご挨拶を申し上げます。

本研究室は大正10年に(旧)生化学第一講座として開設され、これまで6名の先生方がその礎を築かれ、発展を支えてこられました。その伝統を受け継ぎ、これまでご指導・ご支援を賜りました諸先輩方のご信頼を引き継ぎさせていただくことを大変光栄に存じますとともに、その

責任の重さを改めて感じております。

私は大阪府出身で、生命科学の研究を志し当時国内で唯一の四肢・神経の再生研究を行なっておられた東北大学・井出宏之先生(同大学名誉教授)のもとで発生生物学の基礎を学びました。その後、米国ソーク生物学研究所Ronald Evans研究室から帰国された小椋利彦先生(東北大学名誉教授、現・京都大学がん免疫センター特任教授)を追って奈良先端科学技術大学院大学に移り、免疫学と発生学を融合させた独自の分子生物学研究をご指導いただきました。2002年からは、世界最大級の小児病院であるトロント小児病院循環研究部門Benoit G. Bruneau先生のもとで、先天性心疾患の発症機構とエピゲノムとの関係の研究を開始しました。Bruneau先生は、Harvard大学医学部Seidmanご

夫妻の研究室において世界で初めてHolt-Oram症候群及びUlnar-mammary症候群のモデルマウスを報告された研究者です。2006年には、UCSFグラッドストーン研究所への異動を機に幹細胞研究を開始し、帰国後は中胚葉性細胞から心筋運命を誘導する特定3因子を報告いたしました(Takeuchi, Nature 2009)。現在はNGSを基盤としたマルチオミクス解析(トランスクリプトーム・エピゲノム・プロテオミクス)を用いて、①:疾患発症を抑制する非コードRNAs、②:性差疾患発症に関与するクロマチン制御因子、③:腫瘍発症を抑制するヒストン修飾関連因子の研究に従事し、病態解明を目指し、疾患緩和・抑制に役立てられるよう研究に取り組んでおります。

これまで理学部・医学部・歯学部・研究所と、さまざまな分野や環境で研究を

続けてまいりました。その中で出会った多くの研究仲間や得られた経験は、現在の研究アイデアを生み出す上で大きな糧となっております。学生や共同研究者、さらには講義を受ける学生たちには、常に「興味を持つこと」「コミュニケーションを楽しむこと」を何よりも大切にしています。研究視野を広げることが新たな発想を得る助けになりますし、何より柔軟な思考力を育むことが、将来の医療人としての力につながると考えております。

今後は、分子生物学教室教員一丸となり、医学の基礎を支える分子生物学研究と教育を通じて本学の発展に貢献してまいります。同窓会の先生方におかれましては、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますよう、本教室を代表して心よりお願い申し上げます。

秋の褒章、叙勲

「瑞宝中綬章」受章



教育研究功勞
北海道大学名誉教授

ほん ま けん いち
本間 研一
(47期)

「叙勲回想」

この度、北海道大学の推薦を得て、光栄にも文部科学省より瑞宝中綬章を頂きました。聞くところによると、本叙勲の有資格者は一定期間教授職にあって教育研究に実績を残し、さらに部局長

を経験した者で、70歳を過ぎると対象になるとのことでした。この受章は、国立大学が法人化された直後に部局長を2期(2005.4~2009.3)勤め、次々と起こる問題に頭を悩ませていた当時を思い出す機会にもなりました。振り返ると、この時期に私個人として、「教育・研究、学術振興の発展」にどれほど貢献できたかについては、全く自信がありません。一方で、新しい大学像を求め日々奮闘したことは鮮明に記憶しています。その苦勞を国が認めてくれたと理解しています。

当時、年次進行で行われていた校舎の耐震化改修工事が何らかの理由で中断していました。仮住まいで1年も2年も

耐えていた幾つかの講座や研究室を救済するために、研究科独自の資金で工事の再開を決断しました。足りない工事費を工面するため、大学本部に何度も足を運び、半々だった間接経費の配分を研究科2:本部1としてもらったことを記憶しています。また、教員のハラスメント問題にも対処しなければならませんでした。多くの場合和解は不可能で、部局としての対応にも限界がありました。教授以外の教員の名称が変わり、助教授が准教授、助手が助教になりました。講座の教員定員も固定ではなくポイント制となって、さらに教授職6名に相当する大幅な削減があり、人事にも苦勞しました。沈滞して

いた学内の雰囲気を一刷新する目的で始めた学部創立90周年記念行事は、当初予定していた寄附金募集も危ぶまれましたが、最終的に講義棟とプラテ会館の増設が実現し、九十周年記念史も刊行できました。法人化で自由度が増すとの当初の期待は外れ、大学にとっては厳しい時代の幕開けでした。

多くのことが次々と思い出されます。今は昔となりましたが、この間何かにつけて小生を支えてくれた医学研究科の先輩や同僚、同窓会の皆様に心からお礼を申し上げます。

「瑞宝双光章」受章

学校保健功勞 富樫 要
(46期)



「瑞宝双光章」受章



保健衛生功勞
元旭川肢体不自由児
総合療育センター院長
ちょう かず ひこ
長 和彦
(49期)

「令和7年秋の叙勲に想う」

この度、令和7年秋の叙勲に対し、北大医学部同窓会ならびに旭川医大小児

科同門会一幼会の皆さま方から、多大な心暖まるお祝いを頂き衷心より感謝致しております。

実は、10月5日午後わたしの不注意から我が家で転倒し、緊急で旭川医大脳神経外科に搬送され、外傷性も膜下出血の診断で入院。現在リハビリの目的で市内の森山病院に転院中です。そのような訳でベッド上での慣れない中でこの文章をしたためています。

恐らく乱文乱筆でお読み苦しいと思いますが何卒お許し願いたいと存じます。

この度、わたしが叙勲の榮譽に何故浴したかその詳細は不明ですが、恐らく、わたしが1991年旭川療育センターに赴任した当初、北海道の障害児療育は札幌・旭川が中心で、道北、道東地方は皆無の状態でした。そこで、医師、訓練士、心理士、保育士などでチームを組んで旭川からアウトリーチの地域支援を構築したことが大と思われま。

更に、厚生労働省の脳性麻痺研究の班会議の一員として脳性麻痺児の認知、心理、社会的評価に携わったこともその

一因と思われます。これらの仕事は私人の業績ではなく、一緒に働いたスタッフの協働の結果ですので、わたしは彼らの代表として叙勲に預かることに致しました。感謝の思いで一杯です。

最後になりますが、北大小児科で大変お世話になった先輩の富樫 要先生、学校保健功勞により同時期に叙勲されたこともこの上ない喜びです。

新世紀の医学に向けて (53)

「ひと・AI/DX・しくみ」で“真の研究時間”を取り戻す

北海道大学大学院医学研究院
画像診断学教室 准教授／
PRISM-HU研究マネージャー
ひらた けんじ
平田 健司(78期)



先生方は週に何時間、本当の意味での「研究」に時間を使っているでしょうか。診療、教育、データ入力、書類作成、長距離移動——医学系研究者を取り巻く業務は年々複雑化し、自由に思索する「真の研究時間」は奪われ続けています。

医学研究における日本の国際的地位は最近大きく低下しています。その背景には、少子高齢化、地方の人口減少、医師の働き方改革、業務の複雑化などによる「研究時間の不足」があります。助教の半数以上が「週5時間以下」と回答する現実、研究の量・質の両面に深刻な課題を突きつけています。

こうした状況を変えるため、北海道大学は文部科学省・AMEDの「医学系研究支援プログラム」に田中伸哉医学研究院院長を代表者として申請し、2025年8月26日に採択されました。これに伴い、PRISM-HU (Platform for Research Innovation and Support in Medicine - Hokkaido University) が発足しました。

三位一体の研究支援体制

申請にあたり、多くの診療科の先生方にアンケートや個別ヒアリングを行い、研究時間の確保を阻む要因を洗い出した結果、①人的支援、②AI/DXによる支援、③制度改革による支援の3つに分類できることが明らかになりました。これを踏まえて、PRISM-HUは「ひと」「AI/DX」「しくみ」を三位一体で整備することにより、研究者が自由に思索する“真の研究時間”

一すなわち、データ入力や事務作業に追われることなく、本来の創造性を発揮し、自由に思索できる時間——を取り戻すことを目指しています。この実現に向けて、医学研究院連携研究センター「フレイ」内に医学研究AI支援部門を新設しました(2025年10月9日教授会承認)。

1. ひと(人的支援)

医学研究AI支援部門には、医学研究やAI研究に関する高度な知識とスキルを持つ教員、データマネージャー、プログラマー、URA、事務補佐員等を配置します。各研究者のデータに対するAI解析支援だけでなく、研究周辺業務も幅広く支援します。AI研究に欠かせない教師データ作成(アノテーション)や、スライド・論文図表の作成支援、TA/RAによる実習補助など、研究者が時間を奪われがちな業務を代行します。

2. AI/DX

ChatGPTやGeminiなどクラウド型生成AI・大規模言語モデル(LLM)は広く利用されていますが、医療現場の個人情報処理するにはセキュリティ上の問題があります。そこで、院内で安全に運用できるLocal LLMを導入し、個人情報を保持したままのAI処理を実現します。2026年3月までに高性能GPUサーバーを導入し、北大病院の電子カルテシステムに接続することで、手術動画編集支援、データベース入力支援(J-OSLERやNCDなど)、講義スライドや研究計画書のAI生成といった、教育・診療・研究の境界を越えた支援を展開します。

3. しくみ(制度改革)

「研究に専念できる時間」を制度的に保証する研究専念タイムの設定、PI人件費の活用による外勤削減、遠隔診療の導入による地方出張の削減、セルフログやビーコンによる研究時間の可視化といった取り組みを進めています。さらに、2026年前半には医学部中棟2階にサイエンス・カフェを開業予定です。ここは研究者が分野を越えて語り合い、偶発的な出会いから新たな融合研究が生まれる「知の交差点」となります。何気ない会話から革新的なアイデアが芽生える創造的な空間を目指しています。

2025年10月9日には、キックオフ・シンポジウムを開催し(現地57名、オンライ

ン145名参加)、PRISM-HUが集中的に支援する「分子・基礎研究チーム」「画像・臨床研究チーム」「ビッグデータ/オミックス研究チーム」の計12名のPIが一堂に会しました。各PIはそれぞれの専門性を活かした研究内容を紹介するとともに、支援体制の取り組みも共有しました。「真の研究時間」を取り戻すことは、研究者の創造性を解き放ち、北海道大学から世界へと波及する知の連鎖を生み出すための第一歩です。同窓の先生方におかれましても、本取り組みへのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。PRISM-HUは、「ひと・AI/DX・しくみ」を軸に、未来の医学研究を着実に、そして力強く支え続けてまいります。



2025年10月9日のキックオフ・シンポジウム(医学部百年記念館)にて。資金清博総長、田中伸哉医学研究院院長およびPRISM-HU運営メンバーとPI。

ズームアップ③

北海道医療の未来を繋ぐ。若手医師育成プロジェクトへのご支援、誠にありがとうございました。

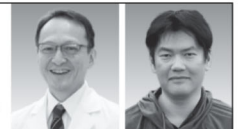
ークラウドファンディング実施のご報告と今後の展望ー

北海道大学大学院
医学研究院院長

たなか しんや
田中 伸哉(66期)

北海道大学
統合URA本部

よしだ あつし
吉田 篤司(84期)



北大医学部同窓会員の皆様におかれましては、日頃より本学の活動に多大なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、この度、私たちが北海道の未来の医療を担う若手医師を育成するために立ち上げましたクラウドファンディングプロジェクト「北海道の未来の医療を担う人材育成プロジェクト」が、2025年10月21日から12月19日までの期間をもって、無事終了いたしましたことをご報告申し上げます。

同窓会員の皆様をはじめ、本学の理念にご賛同いただいた多くの方々より、温かいご支援と激励を賜りました。皆様からお寄せいただいたご支援は、これからの北海道の医療を支える人材を育むために、大切に使用させていただきます。改めて心より感謝申し上げます。

今回の記事では、私たちがなぜ今、クラウドファンディングという形で皆様からのご支援を必要としたのか、その背景にある課題と実現を目指す未来について、

同窓会員の皆様と共有させていただいたく存じます。

【私たちが向き合う、北海道医療の構造的課題】

皆様が実感されている通り、北海道の広大な地域医療は、歴史的に本学医局の医師派遣システムによって、その質と体制が維持されてきました。しかし今、その根幹を支える人材確保が深刻な局面を迎えています。

近年、本学医学部入学者の道内出身者は約3割です。優秀な学生が集うことは喜ばしい一方で、多くが卒業・研修後に道外へ戻る「若手医師の北海道離れ」が顕著です。

結果として、地方中核病院へ派遣できる医師が減少し、地域医療体制の維持に困難が生じています。この流れは、私たちが築いた北海道の医療インフラを揺るがしかねません。この強い危機感が、本プロジェクト発足の原動力です。

【なぜ、今「クラウドファンディング」だったのか】

この課題に対し、既存の枠組みにとらわれない迅速な二つの「種まき」が必要と考えました。しかし、大学の運営予算も厳しい状況下で、実現には新たな資金確保が不可欠でした。

そこで、本学の卒業生であり、北海道の医療を支える「同志」でもある同窓会員の皆様に、この現状と未来への投資の必要性をお伝えし、ご支援を賜りたいと考えた次第です。

【ご支援で実現する二つの柱】

ご支援は、以下の二つのプログラム実行費用として活用させていただきます。

① 北海道の医療と暮らしをまるごと体験!

医学生向け「フィールド研修」
私たちが最も力を注ぐのが、この「フィールド研修」です。これは、かつて本学で実施され、多くの先輩医師に影響を与えた「Early Exposure(早期医療体験実習)」の理念を復活・発展させる試みです。

対象は、キャリアが未定の医学部1、2年生です。夏休み等を利用し、道内各地(帯広、釧路、函館など)の医療機関へ派遣します。

この研修は、単なる施設見学ではなく、以下のような「生きた学び」の場とします。

- 初期研修医に密着し、病棟業務や救急外来の緊迫した現場を体験する。
- 研修医向けレクチャー等に同席し、臨床のリアルな思考プロセスに触れる。
- 初期研修医や上級医と、地方医療の

課題や研修の利点について語り合ってもらいます。

- 看護師や医療事務などコメディカル職員と話し、チーム医療の実態を学ぶ。
- 患者さんと直接対話し、その土地の特色や、地域が若い医学生に望むことを肌で感じる。

都市部の大病院とは異なる環境で、若いうちから多様な経験を積めること。医師、患者、スタッフの距離が近く、地域全体で医療を守る実感。この早期体験こそが、「北海道で働く」選択肢を彼らの心に力強く刻むと確信しています。

② 未来の仲間を増やす。道内高校生へのアウトリーチ活動

もう一つの柱は、将来の北海道の医療を担う、道内出身医学生の母数を増

やす取り組みです。道内高校生対象の出前講座や体験セミナーを開催し、医学への興味と北大で学ぶ意欲を高めます。

【未来に向けて】

クラウドファンディングは終了しましたが、私たちの取り組みはここからが本番です。皆様のご支援を元に、来年度よりこれらのプログラムを本格始動させます。

研修状況や学生の声は、活動報告等で随時お届けする所存です。

同窓会員の皆様には、資金面でのご支援に加え、今後は研修受け入れ先として、また学生の良き相談相手として、引き続き後輩育成にご指導ご鞭撻を賜れますと幸いです。

北海道の医療の未来を、皆様と共に創り上げていけることを心より願っております。

北海道大学大学院医学研究院
医学教育・国際交流推進センター

むら かみ まなぶ
村上 学(81期)



「昨今、北大医学部に来学する留学生について」

医学教育・国際交流推進センター国際連携部門の専任教員の私から、最近の留学生の受入について紹介させていただきます。各教室・診療科の先生方におかれましては、日々の診療、教育、研究活動で、大変、お忙しい中、留学生の指導につきまして、特段のご高配を賜り、誠にありがとうございます。

受入数ですが、2024年度は年間26名、2025年度は、そのほぼ倍の51名がすでに確定見込となっています。在籍する日本人学生の1学年の約半分に相当する数で、教授会では毎月のように受入報告がなされています。

読者の諸先輩の先生方の在学時から想像できないほどの急速な国際化で、アジアはもちろん、ヨーロッパやオセアニアからも多くの留学生を受入するようになりました。世界各国の医学校で国外での臨床実習が盛んになり、協定校のみ

らず非協定校からも留学生が来学しています。本学は、先生方の教育熱意に加え、総合大学で宿舎を有する、雪などの気象条件・観光資源に恵まれるなど、好条件も相まって、特に南国の学生の人気が高く、派遣枠を巡って学内選抜が行われた話まで聞きます。

各教室・診療科では、若手医師の学会発表や留学のためのステップアップ、受入数や教育成果の同門会報告など、留学生受入について様々な活用がなされているようで、カンファレンスで留学生自身の紹介発表をしてもらう診療科もあるとのこと。

母校が世界水準の高い医学教育レベルを維持し、世界各国の優秀な医学生を教育していることは誇らしいことです。留学生受入について、各教室・診療科の先生方の多大なるご協力のもと、着実に進展しておりますこと、心より感謝申し

上げます。微力ながら、お役に立てるよう尽力させていただきたく存じますので、

今後とも、ご指導、ご鞭撻のほど、何卒、よろしくお願い申し上げます。



受入留学生と研究院長の写真撮影&懇談会(オークランド大学、シンガポール国立大学、香港中文大学)

「日本病理学会総会学生発表優秀賞 受賞報告」

医学科5年

しおの いり たけし
塩之入 壮(103期)



はじめまして。103期の塩之入 壮と申します。私は昨年(第114回)日本病理学会総会において、フィンランド型先天性ネフローゼ症候群(CNF)の剖検症例のポスター発表を行い、学部学生発表優秀賞をいただきました。そしてこの度同窓会新聞にて受賞報告の機会を賜り、大変光栄に存じます。今回の症例の解析にあたり、ご指導頂きました統合病理学教室の岩崎沙理先生、北海道大学小児科腎臓グループの岡本孝之先生、市立札幌病院病理診断科の山口貴子先生をはじめ、関係者の皆様にも合わせて感謝申し上げます。

私は、統合病理学教室(旧第一病理学教室)に3年生の頃からお世話になっています。現在は谷口浩二教授から大腸癌でのARIDファミリーの役割に関する

研究テーマを頂き、実習の合間を縫ってコソコソと癌細胞株を相手に実験を続ける毎日を過ごしています。一方で、田中敏先生・岩崎沙理先生より病理診断のいろはを教わり、今回の症例を含め病理解剖に立ち会う機会も度々頂いてきました。来年の日本病理学会総会では自分が行っている大腸癌の研究でも発表ができるよう、今後もより一層実験を頑張っていければと思っています。

今回受賞した演題をご紹介します。CNFは、腎臓のスリット膜を構成するタンパク質のネフリンをコードするNPHS1遺伝子に変異が入り高度な蛋白尿が持続する先天性疾患で、成長遅延や易感染性などをきたします。その名の通りフィンランドでは約8,000人に1人が発症する高頻度な疾患ですが、日本では10万人

に0.3人と大変珍しい疾患です。昔は予後不良でしたが、現在は腎移植をゴールとし、腎摘出や腹膜透析などを併用する治療法が開発され、長期生存が望めるようになりました。しかし、残念ながら本症例のように命を落としてしまう症例も勿論あります。今回は治療の一環で摘出された左側の腎臓と、剖検時の右側の腎臓の糸球体病変を組織学的に比較し、疾患の進行と共にtubulizationや管外細胞増多が増加することを見出しました。同一患児の腎組織を経時的に比較した報告は乏しく、CNFの進行する姿を評価できた貴重な症例報告であったと自負しております。病理解剖を通し、この希少疾患への理解が深まり、未来のCNF患児を救う貢献ができていればこの上ない幸せです。



受賞後の集合写真。(左)岩崎沙理先生(78期)、(中央)筆者、(右)谷口浩二教授(会員2)

フラテ祭2025開催報告

フラテ祭実行委員会事務局

第18回目となる「フラテ祭2025」は、北海道大学ホームカミングデーと同日の9月27日(土)に医学部学生会館フラテホールにて開催しました。同窓生や在学生のご家族をはじめとする関係者の皆様方、50名にご参加いただきました。

矢部一郎フラテ祭実行委員長の挨拶の後、医学部及び病院を見学するツアーを行い、医学部図書館や陽子線治療センターなどを見学しました。

講演会では浅香正博医学部同窓会長からの挨拶に続き、田中伸哉医学部長、南須原康行北海道大学病院長による講演が行われた後、現役医学部生(フラテ編集部、アンサンブルフラテ)による活動発表が行われ、医学部の現状を発信しました。

続いて、学外でご活躍されている先生による特別講演が行われました。信州大学医学部 遺伝医学教室の福岡義光特任教授(53期)から「遺伝医療からゲノム医療へ:その源流は北大にある。」と題

して、臨床遺伝、ゲノム医療についてご紹介いただいたのみならず、北海道大学の根幹についても思いを馳せる機会となる講演が行われ、盛会のうちに終了しました。

今年度も多くの方のご支援とご協力をいただき、無事にフラテ祭を終えることができましたことを、この場を借りて御礼申し上げます。



医学部ツアーでの学生の案内による医学部図書館見学の様子



福岡氏による特別講演の様子

フラテ112号のご案内 (2026年3月発刊予定) 医学部フラテ編集部



同窓会新聞をご覧の皆様、いつも学生会誌「フラテ」に温かいご支援を賜り、誠にありがとうございます。2026年3月発刊予定の『フラテ112号』より、注目記事をご紹介します。

●OB・OG訪問

「フラテ各地に行く in 神奈川」

病院見学では、横浜市立大学附属病院、横浜市立大学附属市民総合医療センター、神奈川県立こども医療センターを訪問しました。座談会には、

39期から93期までの先生方20名がご参加くださり、神奈川県の魅力や地域への想い、人生のアドバイスを語っていただきました。地元愛と温かい同窓生の絆を感じられる内容です。

●巻頭特集 衆議院議員 87期

阿部 けいし先生インタビュー (タイトル未定)

●女性医師インタビュー

「みどりのベンチ」

83期 内田 舞先生インタビュー

●北海道大学キャリア支援セミナー取材 (タイトル未定)

このほか、新任・退任教授の記事や、各教室や部活動の活動紹介など、学生が見た北大医学部と北大病院の「今」をお届けできるよう、部員一同鋭意制作中です。どうぞご期待下さい。

学生会誌「フラテ」は、同封の払込用紙またはQRコードから、一冊2500円にてご予約およびご購入いただけます。学生の目を通して見る今の北大医学部を、是非ご覧ください。



【申込QR】

バックナンバーあり！
久しぶりのご購入。
ご自身在学习中のフラテも！

※電話でのお申し込みは受け付けておりません。

※すでに111号巻末の用紙で申し込まれた方は、再度のお申込は不要です。

卒業生寄稿者募集～フラテ茶苑～

学生会誌「フラテ」では、卒業後の先生方からの寄稿を掲載する「フラテ茶苑」というコーナーを設けております。期を問わず、ご自身の専門分野、趣味等

をご投稿いただけます。在校生にとって、先輩方の多彩な分野でのご活躍は、視野を広げる格好の機会となっております。皆様のご寄稿を心よりお待ちしております。

○内容・形式・字数:自由(専門分野のお話、趣味のお話、最近取り組んでいる事など)

お知らせ

フラテ編集部ではOB・OG訪問「各地に行く」として全国の北大医学部同窓会を取材しております。同窓会の開催予定や取材希望がございましたら、ぜひ下記のメールアドレスまでご連絡ください。

フラテ編集部

E-mail: frate.med@gmail.com

〒060-8638

札幌市北区北15条西7丁目

北海道大学医学部内

告知板

<学内・院内人事異動>

<辞職>

令和7年4月30日 吉田 篤司(84期)

7月31日 川本 泰之(80期)

9月30日 木下留美子(77期)

10月31日 高島 翔太(88期)

春日 優介(97期)

令和8年3月31日 加藤 裕貴(73期)

令和7年12月31日 大澤 崇宏(78期)

<採用>

令和7年10月1日 宮内 俊成(87期)

今福 恵輔(88期)

高橋 周平(93期)

神経生理学教室 特任助教

(北大統合URA本部URA)

消化器内科学教室 助教

(国立がん研究センター中央病院)

放射線治療科 助教(恵佑会札幌病院)

皮膚科学教室 助教(芝田皮膚科医院)

免疫学教室 特任助教(ミュンヘン工科大学)

集中治療部 助教(新札幌循環器病院)

泌尿器科 講師(新潟大学教授)

皮膚科 助教

皮膚科 助教

放射線治療科 助教

宮崎 智彦(93期)

竹内 純(会員2)

令和7年11月1日 江口 克紀(89期)

令和8年1月1日 藤井信太郎(93期)

<昇任>

令和7年10月1日 藤間 憲幸(80期)

<配置換>

令和7年10月1日 杉浦 諒(87期)

11月1日 横田 卓(74期)

村松 憲(87期)

<定員換>

令和8年1月1日 中久保 祥(85期)

放射線治療科 助教

分子生物学教室 教授

医学研究AI支援部門 助教

医療・ヘルスサイエンス研究開発機構 特任助教

放射線診断科 准教授(同科講師)

消化器内科 特任助教(医学研究院)

医療・ヘルスサイエンス研究開発機構

及び医学研究AI支援部門 特任講師

(病院医療・ヘルスサイエンス研究開発機構)

皮膚科学教室 助教(病院)

感染制御部 助教(病院長付助教)

<令和7年度 北大医学部 東京フラテ会総会のご案内>

令和7年度の東京フラテ会総会は、昨年と同様に私学生会館にて開催する予定です。同期知友をお誘い合わせの上、ご参加くださいますようお願い申し上げます。

日時:令和8年3月14日(土)

午後5時受付開始

会場:アルカディア市ヶ谷 私学生会館

(JR市ヶ谷駅 徒歩2分)

東京都千代田区九段北4-2-25

Tel 03-3261-9921

会費:12,000円

講演会:午後5時30分開始

第1部:藤原佳典先生(69期)

東京都健康長寿医療センター

研究所 副所長

東京都介護予防・フレイル予防

推進支援センター センター長

第2部:川合明彦先生(59期)

小石川インターナショナルクリニック

「北海道大学医学部の現状報告」

医学部長 田中伸哉先生(66期)

議事:午後6時40分から7時00分

懇親会:午後7時00分から

参加方法:右図のQRコードから、東京フラテ会参加専用フォームにて参加申し込みをお願いします。

ご不明な点があれば下記までお問い合わせください。

東京フラテ会 会長 昌山 昌則(57期)

【お問い合わせ】

事務局 小西 竜太(78期)

E-mail: konishi.ryota@gmail.com



＜令和 8 年 北大医学部 関西フラテ会総会のお知らせ＞

関西フラテ会会員の皆様、今春も総会を開催します。
講演は68期の穴戸由紀子先生です。関西地区外の会員の方も歓迎します。
ふるってご参加いただき、旧交を温めて下さい。
関西フラテ会会長 山中 幹基 (67期)

記
日時:令和 8 年 3 月 7 日 (土) 午後 5 時～
場所:ホテルモントレグラスミア大阪
〒556-0017
大阪府大阪市浪速区湊町1丁目23
TEL:075-344-8888(大代表)
講演:近畿大学医学部病理診断科 教授

穴戸 原 由紀子先生 (68期)
演題名:「JCウイルスと学んだ、基礎と臨床の架け橋としての病理学」
会費:一般15,000円、研修医5,000円
問い合わせ:山田栄治 (74期)
医療法人桜栄会山田医院
TEL:0774-63-0315

参加登録:2月15日(日)までに、下記QRコードから登録をお願い致します。



<https://forms.gle/jbHiFbWW78FzdFJT8>

理事会・評議員会報告

日 時:令和 7 年11月18日(火)
18時30分から19時30分
場 所:医学研究院 百年記念館
大会議室
出席者
理事会
出 席:10名(会長、副会長2名、理事7名)
評議員会
出 席:52名(出席者10名、委任状提出者42名)
同 席:監事2名
会議に先立ち、政氏議長から本日の理事会・評議員会は、同一議題・報告であり、開催会場も同一の大会議で室行われることから、合同で開催することが提案され、これが了承された。
引き続き浅香会長から会議に際して挨拶があった。
【協議事項】
1.役員候補者選考委員会の設置について
議長から資料1(会則)第9条に「役員の任期は2年」と定められており、現役員の任期が来年3月末日で満了すること。資料2(役員候補者選考委員会に関する要項)第1条に

「評議員は、役員の任期が満了する前年評議員会において、次期役員候補者選考委員会を設置する。」と定められているので、本日の評議員会で選考委員会を設置する旨説明があり、了承された。
次いで議長から第2条に基づき、安部崇重(71期)、木佐健悟(80期)及び松島理明(80期)の各氏が選考委員会委員に指名され、了承された。
2.特別会計から一般会計への流用について
浅香会長からの説明に先立って、同窓会の財政状況について報告事項3「令和7年度会計収支中間報告について」資料7及び資料3に基づいて大西会計担当理事から説明があり、引き続き浅香会長から同窓会の一般会計の財政状況が会費収納率の減少、印刷物等の経費が高騰していることから2023年度以降赤字となっており、手持ち金額が不足となったため、特別会計から一般会計に経費の流用を行いたい旨説明があり、審議の結果、これが了承された。
3.同窓会新聞等のWeb活用等について
大西会計担当理事から財務内容

の改善について検討するため設置した「財務改善検討委員会」の検討結果について資料4-1、4-2、4-3に基づき報告があり、①同窓会新聞等のWeb活用について、②同窓会会費の値上げについて提言があり、審議の結果同窓会新聞等のWeb活用については、了承された。しかしながら、同窓会会費の値上げについては、今後の財務内容の改善効果の分析結果によって、改めて検討することになった。
4.その他
1)卒業生歓迎会の開催について
浅香会長から昨年度の卒業生歓迎会は、卒業生の参加者が最小数となったことから卒業式当日学生主催の謝恩会と合同で行いたい旨説明があり、審議の結果、これが了承された。
【報告事項】
1.評議員、予備評議員の一部交代について
議長から資料5に基づき、令和6年度、7年度の評議員及び予備評議員の一部交代について報告があった。
2.令和7年度庶務、事業報告について
笠原副会長から資料6に基づき、定時総会については、例年、卒業生

歓迎会同日に開催してきましたが、今年度の卒業生歓迎会は来年3月25日(水)にグランドホテルで開催することが決定されましたが、定時総会は当日の会場が確保出来ない場合2月9日に医学部百年記念館で開催し、総会終了後、令和7年度フラテ研究奨励賞授賞式を行う旨報告があった。今後、総会日程につきましては、改めてご連絡すると報告があった。
引き続き、矢部編集理事から事業報告(編集報告)として資料6に基づき、同窓会新聞の発行状況、同窓会誌の表紙のデザインなど進捗状況について報告があった。
3.令和7年度会計収支中間報告について(協議事項2で報告済み)
4.令和8年度以降の会費免除について
議長から、昭和45年卒業の第46期生は、本年4月で卒業後55年を経過したので、会則第6条第2項により、令和8年度以降の会費が免除となる旨報告があった。
※協議事項は政氏評議員会議長が、報告事項は橋本副議長が議事進行を務めた。
以上

新渡戸遠友リビングラボ建設資金支援のお願い

(一社)新渡戸遠友リビングラボ

新渡戸稲造は、母校が生んだ偉大な教育者であり、産業振興や国際貢献においても多大な功績を残しました。加えて「疾病に対する治療は、貧富、高下、都鄙の別なく享受せられなければならない」との理想のもと、日本最初の組合病院を設立したという史実も残されています。
教育においては、明治のはじめ、当時学校に通えぬ子供たちのために私財を投じて建てられたのが「札幌遠友夜学校」であり、札幌農学校(後に北大)の教授、学生らにより、50年にわたり運営されました(1944年に閉校)。現在は「新渡戸稲造

記念公園」という札幌市の街区公園になっています。公園の周辺は、創成イーストと呼ばれる地区で、北海道の礎を築いた官営工場が多く立地していた地区ですが、現在は若いファミリー層が増え、新しい企業も進出し、札幌都心の新たな顔を形成しようとしています。ここに、公園を訪れる子どもから高齢者まで、誰もが集い交流できるコミュニティハブ(拠点施設)を建設し、現代社会を生きる子どもたちを支援する教育プログラムの提供や、市民・大学・民間企業・行政が共働して多世代の人々の生活に潤いを与える情報の発信やイベント

の開催を通じて、新渡戸の理念に通底する「心」を持って活躍できる人材を育てることを目的に、新渡戸遠友リビングラボ(略称:NELL)は取り組みを進めています。
この活動は、北海道大学創基150周年の応援事業にも位置付けられ、昨年度は都市公園に建つ建物としては画期的な木造建築とするために、その材料として北大中川研究林の間伐材を購入し、大まかな製材を行いました。本年度は拠点建設の準備とともに、竣工後を見据えて、北大のキャンパスを使った中学生の宿泊学習や、公園内での木育ワークショップなどのテスト

事業を行っています。
拠点建設には少なくとも1億4千万円程度が必要で、昨年より精力的に寄付の要請活動を進めていますが、現在までに頂いた寄付金は6千万円ほどに留まっており、まだまだ不足しているのが実情です。趣旨にご賛同いただき、計画実現のため、皆様の格別のご支援をいただきたく、よろしくお願い申し上げます。
差込みリーフレットに、組織の紹介、振込先のご案内等があります。
リーフレットのQRコードを読み込むと、NELLのホームページがご覧頂けます。

総会、卒業生祝賀会・謝恩会のご案内

同窓会総会

令和7年度定時総会を下記により開催しますので、ご出席くださるようご案内いたします。
日 時:令和 8 年 3 月 25 日(水)
午後 5 時 30 分より
会 場:札幌グランドホテル
別館 4 階 ひなげし
所在地:札幌市中央区北 1 条西 4 丁目

議事

- 協議事項(予定)
 - (1)令和6年度会計収支決算
 - (2)令和6年度会計監査
 - (3)その他
- 報告事項(予定)
 - (1)庶務・事業報告
 - (2)令和7年度会計収支中間報告
 - (3)その他

総会終了後、令和7年度フラテ研究奨励賞授賞式を予定しています。

卒業生歓迎会

これまで総会終了後に開催していた卒業生歓迎会は、11月の理事会・評議員会において、学生主催の謝恩会と合同で実施することが決定しました。
今年度は、「同窓会総会」終了後に開催いたします。

会場は札幌グランドホテル本館2階金枝において、午後6時半から第102期生の卒業祝賀会・謝恩会を開催します(参加費は無料)。ご参加いただける方は、電話又はメールにより2月20日(金)までに同窓会事務局へご連絡ください。

事務局からお知らせ

会費納入方法について

- コンビニエンスストアでの納入（手数料無料）
会員未納額がある会員には、新聞5月号にのみコンビニ振込票を同封しております。
 - 銀行口座への振込（手数料は、会員負担となります。）
 - 下記口座へお振込みください。
 - 振込用紙等は金融機関備え付け用紙をご利用ください。
 - ・会費過年度分の滞納額がある方は、分割でお支払いいただくことも可能です。是非ご利用ください。
 - ・同姓同名の混乱を避けるため、氏名の前に、必ず卒業期あるいは個人コード（8桁）を記入してください。※会員以外の氏名や病院名は記入しないでください。
- 【記入例1】 50キ サトウイチロウ
【記入例2】 11490301 サトウイチロウ

北洋銀行 北七条支店
(普) 口座番号 4022794
口座名義 北海道大学医学部同窓会
連絡先 011-706-5007
北海道銀行 札幌駅北口支店
(普) 口座番号 1214823
口座名義 北海道大学医学部同窓会
連絡先 011-706-5007
3. 金融機関口座自動引き落とし（手数料は掛かりません。）

- ・事前に「預金口座振替依頼書」のご提出が必要です。
- ・依頼書は同窓会のホームページからダウンロードが可能です。(https://hokudai-med-dousou.com/onegai/html)

必要事項をご記入の上、同窓会事務局までお送りください。

ドクター総合補償制度のご案内

同窓会では「ドクター総合補償制度」を創設し、現在、500名以上の会員が加入して、ご好評をいただいています。
本制度には「医師賠償責任保険（勤務医向け）」、「医療・がん保険」、「所得補償保険」があり、団体割引が適用されるので割安な保険料で加入することができます。
年度途中でも加入出来ますので、取扱代理店または同窓会事務局にお問い合わせください。

〈取扱代理店〉
株式会社第一成和事務所
〒103-8214 東京都中央区日本橋馬喰町1丁目12番3号
Daiwa日本橋
馬喰町ビル3階
フリーダイヤル：0120-100-492
E-mail : koumu@d-seiwa.co.jp
〈同窓会事務局〉
電話：011-706-5007
E-mail : furate@med.hokudai.ac.jp



ご寄付の報告

同窓会事業支援のため、次のとおりご寄付をいただきました。
令和7年9月29日 32期 澤田 孚 様 金100,000円
以上、ご報告申し上げます。誠に有り難うございました。

新刊書紹介

『町医者2.0』
病気やケガのよくある症状を
診察室でぜんぶ聞いてみた

しかの こうた
鹿野 耕太 (85期)
講談社 1,650円

鹿野君とは学生時代、鍋バとその後のサッカーゲームに夜な夜な興じ、卒業後も年に1回程度は会って、最近はお互いのサウナで語り合う仲である。数年前に彼が本を出すつもりで、と言っていたのが現実となり、その出版を祝うとともに、この場で紹介できることを嬉しく思う。本書は、町医者（家庭医療専門医）として日々多様な患者さんに向き合う彼の診療を、読者が追体験できる構成となっている。丁寧な対話から課題を具

体化し、最適な解決策を探っていくプロセスが、34もの症例提示を通して描かれている。エビデンスと患者さんごとの物語（ナラティブ）を統合して多領域の悩みに寄り添う総合力は、作中の比喩さながら、「和洋中なんでも作れる料理上手なお母さん」である。本書は、症状はあるのに検査で異常が出ない人や相談先に迷う人にとって実践的かつ救いとなる一冊であるとともに、進路に悩む医学生や初期研修医が町医者や家庭医の実像を知る格好

の教材となる。また、すでに一つの専門科に進み「レストランのシェフ」となった私のような者にとっても示唆に富み、日常診療において対処に迷う訴えに向き合うヒントが随所に散りばめられており、立場を問わず多くの読者に響く内容となっている。本書からは、鹿野君の地域医療に懸ける温かくも確固たる情熱が伝わり、なお研鑽を重ねて『町医者3.0』へと向かう気概すら感じられる。同窓として心から誇れる一冊である。(85期 宮本泰斗)

次号に新刊書紹介をご希望の方は、右記の要領でお送りくださいますよう、お願いいたします。

【原稿締切日】 2026年3月19日(木)までにお送りください。
【字 数】 本文600字以内でお願いいたします。※本文の前に【タイトル】、著者名(または編集者・監修者名等)フリガナ(卒業期)、出版社名、金額(税込)を、本文の最後に執筆者名および卒業期を明記してください。

【表 紙】 表紙の画像をメールに添付してお送りください。
【書評執筆】 著者(編集者・訳者・監修者)以外の同窓会員(会員2も含む)に限ります。
【原稿送付先】 furate@med.hokudai.ac.jp
【掲 載 号】 新聞184号(5月号、6月中旬頃発送開始予定)

北海道医学会からお知らせ

○北海道医学会について

北海道医学会は北海道における医学と医療の進展を図るため、大正12年に発足した学術団体です。現在は、北海道大学、札幌医科大学、旭川医科大学の医師、医学研究者のほか本会の目的に賛同される方々を一般会員として、また道内の主要医療機関には特別会員として、本会に功績のあった方々には名誉会員としてご参加いただいています。

○主な活動内容

- ・機関誌「北海道医学雑誌」の発行（5月、11月：令和7年は第100巻）
- ・学術集会「市民公開シンポジウム」の開催（10月下旬：昭和42年から実施）
- ・若手研究者への「研究奨励賞」の授与（年3名以内に賞状及び副賞：昭和58年から実施）

※ 北海道医学雑誌は大正12年8月の創刊以来、戦中、戦後の一時期を除いて今日に至るまで継続して刊行され、北海道における医学総合雑誌として広く認知されています。

本誌は原著論文、学位論文以外にも、「研究会」「教室だより」などのセクションにおいて会員の様々な活動を紹介しています。

○会員の状況（令和7年11月30日現在）

- ・一般会員 557名（年会費 4,000円）
- ・学生会員 4名（年会費 1,000円）
- ・特別会員 73団体（年会費 25,000円）
- ・名誉会員 164名

○入会のご案内

本会に入会されていない同窓会員におかれましては、是非ご入会いただけますようご案内申し上げます。医療機関としてのご入会も歓迎します。

なお、会員には機関誌「北海道医学雑誌」を発行の都度お届けいたします。

入会方法は、北海道医学会事務局にお問い合わせください。

- ・投稿規定、掲載料等は、北海道医学会事務局にお問い合わせください。

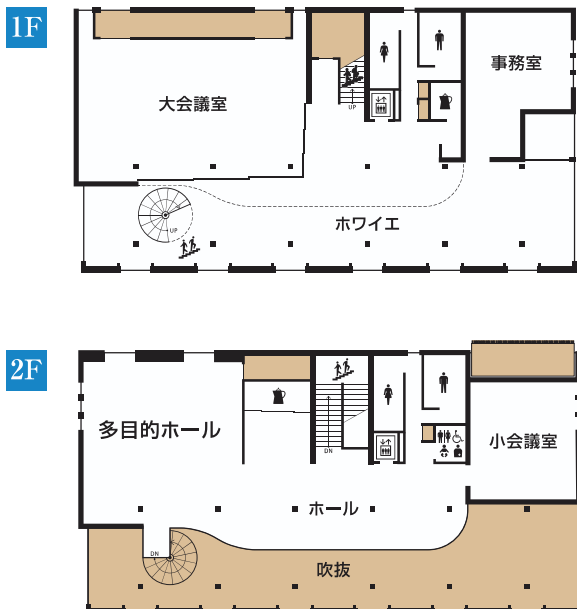
○お問い合わせ先

北海道医学会事務局
(北海道大学医学部百年記念館内)
電話 : 011-706-5007
E-mail : digakkai@med.hokudai.ac.jp
https://www.hokkaido-med-society.org/



百年記念館の利用について

北海道大学医学部百年記念館は、原則北海道大学医学部及び関係部局が主催する授業及び行事、また、同窓生の交流の場としてご利用いただけます。なお、見学、利用に際して事前予約が必要のため、ご利用希望の際は庶務担当まで直接ご連絡願います。



1F 大会議室

[収容人数：54名]

会議やセミナーに利用することを目的として設けました。椅子54脚と会議机27台の他、音響設備、映像設備を備えています。ホワイエとの間は大きな引戸になっており、解放してより大きな空間として利用することができます。

【設備】
椅子／会議用机／電動スクリーン／
液晶プロジェクター（固定）／
ワイヤレスマイク

2F 多目的ホール

[収容人数：42名]

会議よりもカジュアルでオープンな空間として、椅子42脚の他、大会議室同様、音響設備、映像設備を備えています。映像・音声メディアを活用したディスカッションや発表会に適しています。

【設備】
椅子／電動スクリーン／
液晶プロジェクター（固定）／
ワイヤレスマイク

2F 小会議室

[収容人数：18名]

小規模な会議やセミナーに供することを目的として設けました。最大18名での会議を行えます。木材を主とした建物全体の内装と趣を変え、落ち着いた雰囲気が集まることのできる空間になっています。

【設備】
椅子／会議用机

お問い合わせ先

北海道大学医学系事務部総務課庶務担当
TEL：011-706-5004 FAX：011-717-5286
E-mail：shomu@med.hokudai.ac.jp

【受付時間】月曜日～金曜日（年末年始・祝日を除く）午前10時15分から午後5時まで

※同窓会事務局では予約および予約状況の確認は出来ません。

同窓会新聞・会誌等の Web 活用について

昨今の財務状況の改善を目的として、このたび開催された同窓会理事会・評議員会において、今後の新聞・会誌・名簿の情報発信方法について協議を行い、Web（インターネット）の活用を進めていくことが決定されました。（令和8年秋 実施予定）つきましては、会員の皆さまが紙媒体での送付を継続して希望されるのか、あるいはWebでの閲覧を推奨いただけるのか、そのご意向を確認させていただきます。回答は、本新聞に同封しておりますハガキにご記入のうえ、2月末日までにご返送くださいますようお願い申し上げます。

期日までに返信をいただけない場合は、Webでの閲覧をお願いすることとさせていただきます。

会員名簿・同窓会誌の処分にお困りの方へ

個人情報に掲載されておりますので、ご不要になりましたら適切な処分をお願いいたします。処分が困難な方は、同窓会事務局にお送りください。**なお、恐縮ですが送料は各自でご負担願います。**
○送付先
〒060-8638 札幌市北区北15条西7丁目
北大医学部百年記念館内
北海道大学医学部同窓会事務局

【冊数が多い場合】日時指定の上、必ず「百年記念館」に直接配達されるよう指示してください。

※月曜日～金曜日（祝日、年末年始を除く）10時～16時まで

※可能であればヤマト運輸をご利用下さい（ゆうパックなどは医学部庶務宛に配達されてしまいます）。

ご逝去者

新聞182号発行以降、ご連絡いただいた方を掲載しております。

御逝去年月日	氏 名	期	御逝去年月日	氏 名	期
2017年			8月18日	安 水 良 知	53
2月1日	澤 瀬 英 博	36	8月22日	高 松 和 夫	52
2025年			9月3日	本 間 紀 久 雄	40
2月19日	石 井 宏	36	9月7日	山 本 惇	38
2月26日	森 茂 美	37	9月10日	中 村 凱 次	43
4月4日	吉 本 正 典	49	9月15日	桐 澤 俊 夫	42
5月3日	池 田 明 穂	51	9月28日	武 田 章 三	45
6月9日	垂 水 治	33	9月30日	布 施 裕 章	34
6月9日	倉 知 康	41	10月10日	牧 野 勲	38
6月21日	小 野 温	44	10月12日	水 野 文 雄	43
7月6日	伊 藤 一 成	専 7 旧	10月17日	三 浦 旭	28
7月10日	熊 谷 義 雄	27	10月25日	緒 方 昭 彦	57
7月18日	川 上 義 和	37	11月5日	森 岡 時 世	24
7月23日	古 瀬 信	42	11月12日	木 島 英 夫	35
7月25日	金 城 義 人	39	11月18日	飯 田 尚 治	専 7 旧
8月2日	中 川 昌 一	28	11月21日	森 岡 時 世	47
8月4日	小 玉 道 郎	31	11月23日	高 杉 英 一	28
8月15日	砂 川 繁 夫	59	11月25日	川 浪 進	43

一面の写真説明

錦秋

白井 慎一 (83期)

大野池の畔で、紅葉が色づきかける瞬間のグラデーションが錦のようでした。実はこの写真は学部6年生の時に撮った

編集後記

医学研究院および大学病院が新体制となって9ヵ月あまり、物価高騰やそれに伴う光熱費の増加で大学病院と医学研究院も財政難を迎えておりますが、今年度から講堂や食堂のネーミングライツおよびクラウドファンディングによって企業や個人からの献金を得るなど様々な工夫を凝らし、田中伸哉研究院長の下で一丸となって頑張っております。「責任ある積極

もので、もう20年ほど前になります。入学時は創基125周年と言っていたのに、気付けば150周年の節目に。時代も人も移りゆきますが、この景色は変わらず迎えてくれます。自然の芸術(たくみ)を懐かしみつつ、貴とき野心の訓へを培い歩んでいきたいものです。

財政」を掲げる高市総理大臣による新政権、学内では賛金総長の再任など新しい年を迎えるにあたり、事態の変化を予感させ、それが大学病院や医学部・医学研究院の発展に繋がることを願うばかりです。

本年が皆様にとって良い年でありますよう心より祈念申し上げます。

(81期 的場光太郎)